■菱川師宣　　**浮世絵師。初の挿絵画家として独自の画風開拓，大流行して独占，江戸浮世絵の実質的な開祖で，元禄文化先駆。**
ひしかわもろのぶ
寛永禁書令・1630＝　　この頃，安房国保田村で，京都菱川町から移住して紺屋・縫箔技術を伝えてきたらしい家系の菱川吉左衛門の長男に生まれる。通称吉兵衛。
徳川秀忠没・1632＝ 2歳：
_幼時から，絵を描くことがうまく，

鎖国令Ｖ・・1639＝ **9歳：**

家光鎖国完成1641＝11歳：

家業が不振だったためか，

・・・・・・1646＝16歳：この頃，**_江戸に出て，絵を学び始め，**

市中諸法度・1648**＝18歳：**
さらに，**_京都にも上って，狩野派・土佐派など本格的な流派の画法を学び，**

徳川家光没・1651＝21歳：

明暦の大火・1657**＝27歳：**

・・・・・・1660＝30歳：この頃，**＊興隆期の江戸の大衆出版界に身を投じて挿絵画家となる。師宣の版画表現は，率直な明快さを愛する江戸人の美意識を代弁するもので，独自の美人画様式は，大衆的な支持を受けて大いに流行して行く。以後無名時代の師宣風の挿絵は，すべて彼の作と考えられる。**

酒井忠清大老1666**＝36歳：**
やがて版画を文章に従属した挿絵から解放し，冊子本という形式からも独立させて一枚絵の鑑賞版画を生むに至るが，なお12枚一組の揃物として発表するにとどまり，代表作に「よしはらの躰」，「上野花見の躰」がある。

東西海運確立1672＝42歳：彼は多くの無名の絵師と異なり，**＊この年刊の絵入り本「武家百人一首」に江戸の挿絵画家としてはじめて署名を入れ，またしばしば大和絵師と自称して伝統的な大和絵の継承者を自認した。傑作好色本「伽羅枕」，**

談林派俳諧・1675**＝45歳：**「心学男女鑑」刊。
・・・・・・1676＝46歳：「小むらさき」刊。
・・・・・・1677＝47歳：「江戸雀」(菱川師宣画)刊。
藤十郎登場・1678＝48歳：「古今役者物語」「吉原恋の道引」刊。
越後騒動・・1679＝49歳：「伊勢物語頭書抄」(菱川師宣画)刊。
徳川綱吉将軍1680＝50歳：「大和絵づくし」「人間不礼考」「小倉百人一首」刊。
天下一禁止・1681＝51歳：「当風花のおもかげ」刊。
好色一代男・1682＝52歳：「女歌仙新抄」「浮世続絵尽」「東叡山名所」「西行和歌修業」刊。菱川師宣画「千代の友鶴」刊。**＊西鶴の「好色一代男」に挿絵を描き，ベストセラーとなる。**
八百屋お七・1683＝53歳：「美人絵づくし」「岩木絵づくし」「花鳥絵尽」刊。**_この頃の「鹿野武左衛門口伝咄」に自画像を描いているが，すでに大金を稼いだ大旦那の風をしている。**
堀田正俊暗殺1684**＝54歳：**「団扇絵づくし」「侍農絵づくし」刊。
出世景清初演1685＝55歳：「和国諸職絵づくし」「源氏大和絵鑑」刊。
・・・・・・1686＝56歳：「大和絵づくし」「大和絵のこんげん」「好色絵本大全」刊。
・・・・・・1689＝59歳：「異形仙人づくし」刊。この頃，薙髪して友竹と号した。
湯島聖堂・・1690＝60歳：菱川師宣画「東海道分間絵図」刊。「たなばた歌絵づくし」刊。
生涯に作画した絵本，挿絵本は上記を含めて150種以上にのぼり，枕絵本のほか，絵づくし類，名所案内記，さらには金平本や仮名草子，和歌書などと，取材の範囲は多方面にわたった。
奥の細道・・1693**＝63歳：**
芭蕉+師宣没 1694＝64歳：**＊財力を示すように，郷里保田の別願院に先祖の供養を兼ねた梵鐘を奉納し，没した。**

「人づくり風土記(千葉)」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，